防災マップをつくろう！

瀬戸内市防災マップ作成の手引き

令和5年4月

瀬戸内市

【目　次】

１．防災マップとは　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２．防災マップづくりの目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

３．防災マップづくりの流れ　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

　ＳＴＥＰ１　防災マップづくりの準備をしよう　・・・・・　２

　ＳＴＥＰ２　まち歩きをしよう　・・・・・・・・・・・・・・　５

　ＳＴＥＰ３　防災マップづくりをやってみよう　・・・・・　６

４．防災マップが完成したら　・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

参考　「まち歩きチェックシート」　・・・・・・・・・・・・　１０

巻末資料　　取組事例（磯上地区自主防災会）

1. 防災マップとは

防災マップとは、自治会など一定の範囲で、学校や公共施設、公園などの避難場所・防災資機材置場・消火栓・防火水槽・危険個所・行き止まりの道・過去の被災場所などを、一枚の地図に書き込んだものです。

災害が起きた時に、すばやい避難活動や救助活動を行うためには、普段から地域の危険個所や防災情報を把握し、住民どうしで共有しておくことが大切です。

そのための手段の一つが、「防災マップづくり」です。

2. 防災マップづくりの目的

防災マップづくりの目的は、次の2点です。

①防災マップづくりの過程で、住民の皆さん自身が、災害が発生した場合の行動や平常時に必要な取り組みについて学ぶこと

②お互いの知識や過去の経験を出し合いながら防災マップづくりをすすめることで、住民どうしのコミュニケーションを促進し、地域防災力を向上させること

防災マップづくりには、地域の防災情報を知るだけでなく、住民どうしの交流の機会となり、防災意識の向上や住民相互の助け合いの意識の醸成につながるメリットがあります。

★参考：防災マップづくりの「前」に

防災マップづくりを行う前に、参加者の関心・意欲を高めておくと、より実効性の高い防災マップの完成が期待できます。

危機管理課では、地域に出向いて「**防災出前講座**」を開催し、想定される災害や基本的な備え等について啓発を行っています。開催を希望する場合は、開催日の3週間前までに「職員派遣依頼書」を危機管理課まで提出してください。

また、日頃から自治会活動等がさかんであるなど、既に参加者が地域の情報をある程度把握している場合には、「**災害図上訓練DIG**」を実施しても良いでしょう。地域で起こり得る災害状況やその対応方法について検討することで、さらに理解を深めることができます。消防庁ホームページなどを参考に実施するか、防災出前講座として危機管理課に実施を依頼して、地域で取り組んでみましょう。

3. 防災マップづくりの流れ

地形状況や危険個所など、自分たちの地域について知ることが、自主防災活動を考えていく第一歩です。地図やチェックリストを使いながら実際にまちを歩き、気づいたことなどを一枚の地図にまとめ、情報を整理していきましょう。

防災マップづくりは以下の手順で進めます。

STEP 1
防災マップづくりの準備をしよう

STEP 2
まち歩きをしよう

STEP 3
防災マップづくりをやってみよう

STEP 1　防災マップづくりの準備をしよう

①まち歩きの範囲・ルート・チェック項目を決める

はじめに、まち歩きの範囲とルートを決めましょう。対象地区が広い場合は、目安として1時間程度で歩くことのできる範囲に決めましょう。

次に、「まち歩きチェックシート」を参考に、日頃から危険だと感じられる場所や、日常的に利用される場所などを思い浮かべながら、点検項目を検討しましょう。その際、何人かで集まって決めるとより良いでしょう。

②日時を決める

まち歩きを行う日時を決めましょう。できるだけ地域の皆さんが参加しやすい日時を設定し、早めに PR できるとよいでしょう。また、より多くの人に参加してもらうため、曜日や時間帯を変えて、何度か開催してもよいでしょう。

③PRする

回覧板やチラシなどをつくって PR しましょう。その際、幅広い意見を聞けるように、女性や子どもの参加も積極的に促しましょう。

④会場を手配する

当日は地図を広げて皆さんで作業をします。新聞見開き（Ａ０サイズ）程度の地図が広げられる机が必要です。参加者の人数に合わせて、余裕をもって作業ができる会場を選びましょう。

⑤道具を用意する

防災マップづくりに必要な道具を用意しましょう。以下を参考にしてください。（参加人数に応じて数量等は調整しましょう）

（例）準備物チェックリスト

道具		数量（班毎）
□ 地図（大）	対象地域の現在の地図。（A0～A1版）	1枚
□ 透明シート	地図にかぶせて使用。ロールなら全体1つでも可。	3枚
□ 油性ペン	必ず油性。太字、細字を組み合わせて12色程度。	2セット
□ アンメルツ	油性マジックの消しゴムとして使用。除光液も可。	1つ
□ ティッシュ	アンメルツの使用後の汚れ取り。	1つ
□ 養生テープ	地図や透明シートを固定。	1つ
□ ドットシール	5色程度。大、中、小あると良い。	適宜
□ 付せん	コメントなどを記入。	多数
□ 地図（小）	まち歩き用の地図。（A3～A4版）	2～3枚
□ チェックシート	まち歩き用。事前に内容を精査しておくこと。	2～3枚
□ ハザードマップ	想定される災害を確認（令和2年3月版を使用）	1冊
□ 名札	安心して参加できるように。関係づくりにもなる。	人数分
□ カメラ	気になる箇所を撮影。（デジカメ・携帯・ポラロイド）	1基
□ バインダー	まち歩きの際に使用。	適宜
□ 筆記用具	まち歩きの際に使用。	適宜

地図は下記サイトから印刷するほか、市総務部総務課窓口にて「瀬戸内市地形図」を購入することができます（A0サイズ　1,000円／枚　　A3サイズ　100円／枚）。まち歩き用は一人につき 2～3 枚程度、会場作業用は各班に 2～3 枚程度準備しておきましょう。

【無料で地図の印刷ができるサイト】

- **国土地理院ホームページ　https://www.gsi.go.jp**
- **国土交通省「ハザードマップポータルサイト」　https://disaportal.gsi.go.jp**

⑥当日のスタッフとスケジュールを確認する

スタッフとして、全体の進行役を1名、グループごとのまとめ役を1名配置し、当日の流れを共有しておきましょう。グループは6名程度を目安に事前に組んでおきましょう。年齢や性別などに配慮し、偏りがないように工夫しましょう。

スケジュールは、以下を参考に作成してください。2日に分けて実施しても良いでしょう。

◆スケジュール（例）

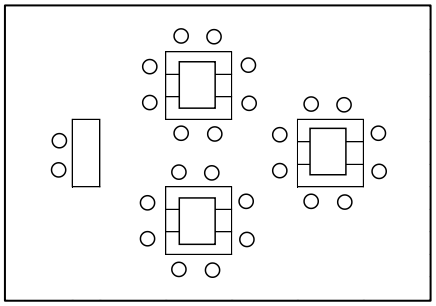
時間	実施項目
9:30～10:00 （30 分）	**まち歩きの目的と注意事項の説明** ・参加者のグループ分け ・まち歩きルートと集合時間の確認
10:00～11:15 （75分）	**グループに分かれてまち歩き** ・チェックシートをもとに危険箇所等を確認 ・気になる箇所はカメラで撮影
11:15～12:00 （45分）	**まち歩き結果の整理・意見交換** ・会場作業用の地図に結果を記入 ・気づいたことなどについて意見交換

⑦市の補助制度を活用する

防災マップづくりに必要な事務用品等の購入費用など、自主防災組織の活動費用に対する補助制度（瀬戸内市自主防災組織活性化促進事業補助金）がありますので、ぜひご活用ください。（事前に申請が必要です）

STEP 2　まち歩きをしよう

①会場のセッティングをする



スタッフを中心に、机やいす、防災マップづくりの道具などを並べましょう。

1グループは6名程度です。机をつなぎ合わせるなどして、作業がしやすいようにします。

②グループ分けをする

参加者を各グループに誘導します。その際、名札を配り、名前を記入してもらうとよいでしょう（養生テープなどで代用しても構いません）。

③役割分担をする

グループごとに集まったら、全員が積極的に取り組めるよう、役割分担（カメラ係、点検係など）を決めましょう。もちろん、自分の役割以外でも気づいたことがあれば、お互いに伝え合って構いません。

④まち歩きに出かける

地図、まち歩きチェックシート、カメラ、筆記用具などを持ってまち歩きに出かけましょう。ただし、まち歩き中は交通安全に注意を払い、通行人や車の邪魔にならないようにしましょう。また、個人が所有する家屋（空き家等）やブロック塀をむやみに撮影したり、名指しで批判したりするのは控えましょう（トラブルの元です）。

【点検係】

危険な場所などを確認し、地図やチェックシートに書き込みます。些細なことでも、気づいたことをどんどん書き込んでいきましょう。

【カメラ係】

気になる場所を撮影し、撮影ポイントを地図に書き込みます。点検係と協力しながら、会場に帰ってみんなで話し合いたい場所を撮影しましょう。

【リーダー】

参加者が積極的に取り組めるよう、「ここは行き止まりですね」「この用水路は溢水に注意が必要ですね」「この消火栓は自分たちで使えるのでしょうか」「この公会堂の鍵は誰が持っているのでしょうか」などの声掛けをしましょう。

STEP 3　防災マップづくりをやってみよう

①作業の準備をする

テーブルの上に地図（会場作業用）を置き、養生テープで固定します。さらに、透明シートをかぶせて、養生テープで固定しましょう。地図の周りは、油性ペンやドットシール、撮影した写真（10cm角程度にプリントアウト）など、必要なものを置いて作業ができるように整えましょう。

②まち歩きの結果を整理する

役割分担ごとにメモした内容を話し合いながら、情報を描き込んでいきましょう。

＊色分けの例（地域の特色）＊

- 緑斜線 … 災害時に多目的に使えそうな広場、公園、運動場、駐車場など
- 青 … 河川、ため池、用水路など
- 黒 … 鉄道
- 黄緑 … 垂直避難に利用できる建物など
- 赤 … 冠水や家屋倒壊等により、通れなくなる可能性がある道路
- ● シール … 行政指定の避難所・避難場所
- ● シール … 防災資源（井戸、防災倉庫、病院、コンビニ、薬局、ホームセンター、スーパーなど）
- ● シール … 特に危険となる箇所（その理由を赤色付せんに書いて横に貼ると良い）

③地域のハザードを把握する

②の透明シートの上に、もう一枚透明シートを重ね、「瀬戸内市防災ハザードマップ」（令和2年3月）を確認しながら地域のハザード（危険要因）を描き込みましょう。

＊色分けの例（ハザードの把握）＊

- 紫斜線 … 河川氾濫・高潮浸水想定3.0m以上、津波浸水想定区域（立退き避難）
- 水色斜線 … 河川氾濫・高潮浸水想定3.0m未満（最悪、垂直避難）
- 茶斜線 … 土砂災害の恐れのある範囲

色分けをしながら、まち歩きで撮影した写真を地図に貼り付けます（印刷ができない場合は、写真の貼り付けは後日でも構いません）。また、特に気になる箇所などがあれば、付せんにコメントを書いて貼り付けてみましょう。

④意見交換をする

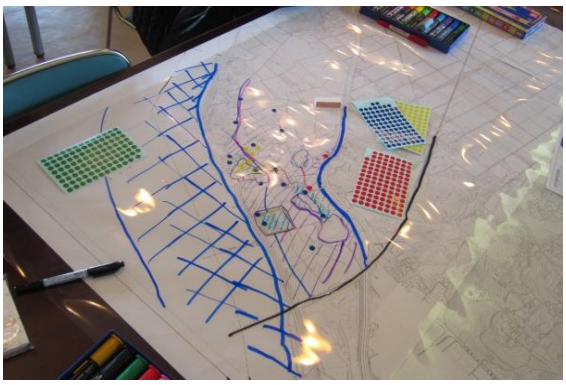
普段、何気なく歩いていた地域も、視点を変えて歩いてみると危険な場所が見えてきます。まち歩きやマップづくりを通して感じたことや気になったことなどについて話し合いましょう。

お茶やお菓子を囲みながら、楽しくワイワイ進めても良いでしょう。

⑤防災マップを完成させる

できあがった防災マップや意見交換の模造紙を使って、グループどうしで発表してみましょう。終了後は、グループで作成したマップをそのまま地区の集会所などに掲示するか、スタッフを中心として、各グループの防災マップをもとに、A3 サイズ程度の地図に清書して完成させましょう。

余白部分などを利用して、緊急連絡先などを追加すればより便利です。



★参考：ファシリテーターの心得

ファシリテーター（facilitator）は「促進する」「容易にする」という英語 facilitate が語源で、「支援者」「促進者」という意味です。ファシリテーターは、メンバーの上に立ち、リーダーシップで引っ張っていくような指導者タイプではなく、同じ立場から、引き出し、促し、まとめていける支援者である必要があります。

「教える側」「教わる側」という関係は防災マップづくりには合いません。防災マップづくりのファシリテーターは「教える人」ではありません。自分が何かをやるのではなく、参加者からどれだけ引き出せるかが勝負です。そういう意味では、聞き上手な人が向いていると言えます。

★発展：付せんを使った意見交換

与えられたテーマについて、自分の思いつくままに意見やアイデアを大きめの付せんに記入し、同じ意味や種類のものをグループ化したりして、楽しく参加者の意見をまとめてみましょう。

付せんを使うことで、意見を言うのが苦手な人や、女性や子どもでも、意見交換をしやすい場をつくることができます。

①意見やアイデアを書き出す

はじめに、考えるテーマについて思いついたことを、1つずつ1枚の付せんに書き出します。たくさん思いついても、1つ1つその数だけ付せんに書き出しましょう。また、詳細に書きすぎる必要はないので、みんなが見える字の大きさで書くようにしましょう。

②意見やアイデアの発表と付せんの分類をする

参加者全員が、1人1枚ずつ、順番に自分の付せんに書いた内容を読みあげながら模造紙に貼っていきます。その際、他の参加者が貼った付せんの内容と似た内容の付せんがある場合は、先に貼った人の近くに自分の付せんを貼っていき、大まかに分類をするようにしましょう。

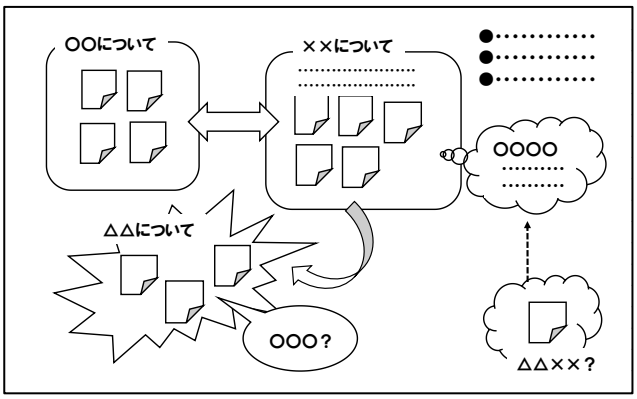
全員の付せんがなくなるまで続けましょう。

③「見出し」をつける

大まかに分類出来たら、そのグループ全体を表す「見出し」をつけましょう。「見出し」をつけながら、付せんを移動させたりして整理しなおしても構いません。

④意見やグループの整理をする

つけた「見出し」を見渡しながら、グループどうしの関係線を引いたり、コメントやイラストをつけたりしながら、わかりやすくまとめてみましょう。また、新たなアイデアが浮かんだら、追加で書き留めていきましょう。



※参加者が自由に安心して自分の意見を述べることができる場をみんなでつくることが大切です。<u>人の意見を否定したりするような発言は慎みましょう。</u>

4. 防災マップが完成したら

①地域に広めよう

地域の集会所等に防災マップを掲示した旨を回覧等でお知らせしたり、防災マップを清書した場合は地区内の全世帯に配布するなどして、みんなで情報を共有しましょう。いざという時にすばやく行動できるように備えてもらうことが大切です。

また、はじめから全世帯が防災の取り組みに参加することは難しいですが、完成した防災マップを見て、地域の取り組みに関心を持つ方もいるかもしれません。次の活動に参加するきっかけをつくるためにも、皆さんの活動をどんどん広めていきましょう。

②定期的に見直そう

時間とともに地域の状況は変化していきます。定期的に防災マップは更新して、地域で情報を共有しておくようにしましょう。

毎回、まち歩きをするのも一つですが、例えば、地域の清掃活動や草刈りなどの行事の際に、危険な場所を確認する意識を持って参加してもらうことで、負担をかけずに防災マップの見直しを行うこともできます。自治会役員の方などと相談しながら、地域行事の中に防災の取り組みを入れる工夫もしてみると良いでしょう。

★発展：地域内の住民の情報を集める

大規模災害が発生した時には、普段から顔を合わせている地域の人々が集まって、互いに協力し合いながら対応すること（共助）が重要だと言われています。

地域の役員や防災リーダー、要配慮者（高齢者や障がい者など）の居住地をあらかじめ把握しておくと、より円滑な避難支援や災害対応にあたることができます。

例えば、マップづくりの際に、避難時の支援が必要な方の情報を書き込んだ透明シートを別に作成し（◯（白色）シールで位置を確認すると良い）、参加者で情報共有して、終わったら透明シートを外して役員が保管するなどしていざという時に活用できるようにしておくと良いでしょう。

（参考）まち歩きチェックシート

	担当者	番号	点検項目	メモ
安全な場所	・マップに書き込む人 （　　） ・見つける人 （　　）	1	広い空間	
		2	広い駐車場	
		3	公園・広場	
		4	高いところ	
災害時に役に立つ場所	・マップに書き込む人 （　　） ・見つける人 （　　）	5	消火栓・消火器	
		6	防火水槽・井戸・水場	
		7	掲示板	
		8	消防機庫	
		9	公衆便所	
		10	公衆電話	
		11	病院・医院	
		12	薬局	
		13	防災資材のある店	
		14	コンビニ・スーパー	
		15	自動販売機	
危険な場所	・マップに書き込む人 （　　） ・見つける人 （　　）	16	狭い道	
		17	行き止まり	
		18	危険な道	
		19	危険用水路	
その他気づいた場所				
カメラ係	・写真を撮る人 （　　）			

・必要に応じて項目を増やしたり減らしたりしても構いません。
・全員に役割を与え、積極的に参加できるようにしましょう。
・「メモ」欄には、些細なことでもどんどん記入していきましょう。

巻末資料　取組事例（磯上地区自主防災会）

▶地区の取組事例

防災マップづくりで自主防災活動を活性化させる

瀬戸内市防災マップ作成モデル事業 × 磯上地区自主防災会

自主防災組織の活動を活性化させる

瀬戸内市では、令和４年度に「瀬戸内市防災マップ作成モデル事業」を実施しました。この事業は、①自主防災組織の育成・活性化、②『瀬戸内市防災マップ作成の手引き』の完成、の 2 点を目的として、モデル地区を選定して地区独自の防災マップを作成するものです。

防災マップとは、地域の「資源と危険*」を一枚の地図に書き込んだもので、普段から地域の危険箇所や防災情報を把握し、住民への啓発や自主防災組織の活動内容の検討に活用します。

防災マップは、住民一人ひとりが、災害が発生した場合の行動や日頃の備えについて考える機会をつくることだけが目的ではありません。実際に地域を歩きながら危険箇所等を確認したり、お互いの知識や過去の災害経験を出し合いながら地図に情報を書き込む過程で、**住民どうしのコミュニケーションを促進し、助け合いの意識を生むことで、地域防災力を高めていく**ねらいがあります。

自主防災活動の起爆剤に

本事業のモデル地区となったのは「磯上地区自主防災会」です。

磯上地区自主防災会は、地区内の 6 自治会を包括して、平成 26 年 4 月に結成されました。過去にも防災マップの作成に取り組んだことがありますが、役員の交代や新型コロナウイルス感染症の拡大等により活動が休止している状況でした。そこで、改めて防災マップを作成する過程で地域住民の防災意識を高め、今後の自主防災活動の活性化のきっかけとするために、本事業に応募しました。

磯上地区自主防災会の髙原会長は、**「防災マップを作成して終わりにするのではなく、今後の地域での防災訓練や、消火栓などの点検に活用していきたい」**と言います。また、完成したマップを各自治会の公会堂に掲示したり、清書したものを全戸に配布したりするなど、防災マップづくりに参加できなかった住民への共有についても検討していくそうです。

自主防災組織としては、完成したマップを活用して、どのように地域の防災活動に活かすかを考えることが大切です。また、地域の情報は時間とともに変化していくため、定期的に更新を行い、住民への意識付けも続けていくことが必要です。

***資源 … 学校や公共施設、公園などの避難場所・防災資機材置場・消火栓・防火水槽 など。**
***危険 … 浸水想定区域、土砂災害危険区域、水路、行き止まりの道、せまい道、過去の被災場所 など。**

◀ 防災まち歩きに合わせて、消火栓などの点検も行いました。

▶ 様々な世代の方が参加し、お互いに知恵を出し合いながら防災マップを作りました。

▲「凡例を付けたほうが分かりやすいだろう」「ふせんにコメントを書いておこう」など、自分たちで活用しやすいように工夫しました。

▲ 防災まち歩きでは、参加者で役割分担し、危険箇所や防災資源の位置を確認し、特に気なる場所はカメラで撮影したりしながら情報を集めます。集めた情報を地図上に整理すると、地域独自の防災マップが出来上がります。

モデル事業を終えて

本事業を通して、磯上地区住民の皆さんが知恵を出し合いながら、地域の危険箇所や災害時に必要な行動などについて熱心に考え合う姿が印象的でした。また、過去の災害の記憶をたどりながら防災まち歩きを実施することで、世代を超えて住民から住民へ地域の災害リスクを伝えることもでき、防災マップを完成させること以上に、その作成過程で多くの学びが得られたのではないかと思います。何より、住民が集まり、考え合い、つながりをつくっていく営みの大切さを感じてもらえたのではないかと思います。

近年、高齢化や人口減少、住民のライフスタイルの変化などを背景として、地域コミュニティの弱体化やつながりの希薄化が課題となっている地域が増えつつあります。こうした地域においては、地域活動を牽引する人材が不足していることも大きな課題です。

一方で、「防災」は住民にとって共通のキーワードであり、日本各地で災害が頻発・激甚化している昨今においては、地域ぐるみで取り組むべき重要課題となっています。私たちは、今一度「防災」に注目し、**住民による自主防災活動を起点として、様々な地域コミュニティ活動を活性化させていくという積極的な視点**を持つ必要があるのではないでしょうか。

本手引きが多くの自主防災組織に活用され、防災マップづくりをきっかけに、地域コミュニティ活動が活性化していく一助となることを願っています。

◆瀬戸内市防災マップ作成モデル事業日程

日付	内容
11/26(土) 19:00～ 20:00	**【第1回役員会】** ①事業の趣旨説明 ②地域住民への周知について
1/28(土) 10:00～ 12:00	**【災害図上訓練DIGの実施】** 「災害図上訓練 DIG」とは、参加者が地図を囲み、地域の情報を書き込みながら防災対策を検討する訓練のこと。マップづくりの前に、まずは既に知っている情報をもとに、自主防災組織の活動などについて話し合いました。
2/10(金) 19:00～ 20:00	**【第2回役員会】** ①防災マップ作成の流れについて ②防災マップの縮尺や防災まち歩き範囲の確認
2/18(土) 9:30～ 12:00	**【防災まち歩き＆防災マップづくり】** **9:30～10:00　まち歩き、マップづくりの説明** **10:00～11:15　防災まち歩き** 地図やチェックシートをもって地域を歩き、危険箇所や防災資源を確認しました。 **11:15～12:00　防災マップづくり** 防災まち歩きで確認したことを地図に落とし込み、防災マップを完成させました。各地区で防災マップを活用しやすいように仕上げました。

災害図上訓練DIG

令和5年1月28日(土)10:00～12:00　磯上ふれあいプラザ

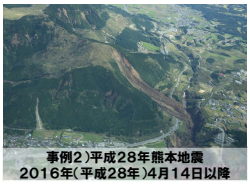
瀬戸内市役所 総務部 危機管理課

自主防災組織の役割

近年、日本各地で発生している地震災害

事例1）東日本大震災
2011年（平成23年）3月11日

写真：総務省消防庁ホームページ



事例2）平成28年熊本地震
2016年（平成28年）4月14日以降

写真：総務省消防庁ホームページ

事例3）大阪府北部を震源とする地震
2018年（平成30年）6月18日

写真：内閣府防災情報のページ

事例4）北海道胆振東部地震
2018年（平成30年）9月6日

写真：総務省消防庁ホームページ

近年、日本各地で発生している風水害

事例1）平成26年8月豪雨
（広島市で土砂災害）

写真：国土交通省 国土地理院ホームページ

事例2）平成29年九州北部豪雨
（福岡県や大分県などで河川氾濫、土砂災害）

写真：国土交通省ホームページ

事例3）平成30年7月豪雨

写真：国土交通省ホームページ

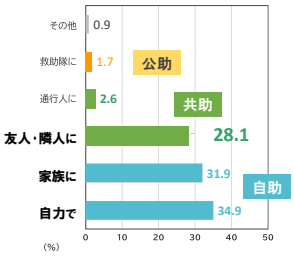
事例4）令和元年台風15号災害

写真：国土交通省ホームページ

災害が発生した地域における対応の実態（救助活動の実態）

阪神・淡路大震災において、倒壊家屋から救助したのは
自助が66．8％、共助が30．7％、公助は2％足らず

阪神・淡路大震災における倒壊家屋からの救助活動の主体



参考：日本火災学会「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書（1996）」

災害時（特に直後）は
「公助」が間に合わない

直後は
「自助」と「共助」で
守り抜く必要

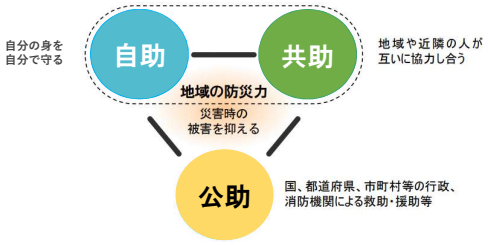
災害が発生した地域における対応の実態（地域ぐるみでの避難）

◆地域ぐるみでの避難体制（事例：広島県東広島市黒瀬町洋国団地）

- 平成30年7月豪雨で土石流による被害を受けたが、**住民で支え合って事前に避難したため、死者やけが人がゼロ**だった。
- 要配慮者を含む7名が**避難情報の発令前に自主的に避難**した。この時、**自治会で事前に決めていた要配慮者を支援する担当者が避難の補助**をした。
- 平成26年の災害を受け、防災に関する取組をはじめ、緊急告知ラジオの設置や民生委員等による高齢者・障がい者の避難を支援する担当を事前に決めていた。

参考：内閣府「平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について（報告）」「参考資料」

自助・共助の重要性



災害時（特に直前、直後）は、「公助」の活動には限界がある
✓道路の寸断等で地域が孤立　✓行政等も自身が被災

「自助」と「共助」の防災活動が重要

自主防災組織の役割

「住民の隣保共同の精神に基づく自発的な防災組織」
（災害対策基本法第2条の2第2号）

「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感 → **自主的に結成** → **災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う**

（解説）「隣保共同の精神」と自主防災組織

隣保共同の精神とは、「となり近所の家々や人々が役割を分担しながら、力・心をあわせて助け合う」ことをいう。

隣保 … となり近所の家々や人々との日常的なつながり

協働 … 役割を分担しながら、力・心をあわせて事にあたること

自主防災組織は、災害に対して地域・近隣で協力し合える組織として、隣保共同の精神に基づく活動が求められている。

参考：消防庁「自主防災組織の手引き　-コミュニティと安心・安全なまちづくり-」

自主防災組織の必要性

地域とのつながり・結びつきが希薄化する現在、安全・安心な暮らしを守る地域社会づくりには、「自助」・「共助」の力を高める自主防災組織の活動が不可欠。

◆ 自主防災組織の日常における活動の目的 ◆

①【 自助力の向上 】
各家庭での
防災対策の推進

②【 共助力の向上 】
地域の
災害対応力の向上

瀬戸内市防災マップ作成モデル事業について

瀬戸内市防災マップ作成モデル事業の目的

事業の目的 1

自主防災組織の育成・活性化

地域の災害特性を認識するとともに、自主防災組織を育成・活性化させるため、防災マップの作成を実施する自主防災組織の取り組みを支援する。

事業の目的 2

手引きの完成

『防災マップを作ろう！瀬戸内市防災マップ作成の手引き（案）』をモデル的に活用し、事業成果を踏まえて手引きの完成を目指す。

防災マップとは？

防災マップ…地域の**資源**と**危険**を一枚の地図に書き込んだもの。

資源　学校や公共施設、公園などの避難場所・防災資機材置場・消火栓・防火水槽　など。

危険　浸水想定区域、土砂災害危険区域、水路、行き止まりの道、せまい道、過去の被災場所　など。

災害時に、すばやい避難行動や救助活動を行うためには、**普段から地域の危険個所や防災情報を把握し、住民どうしで共有しておく**ことが大切。

防災マップづくりの目的

自助の力を高める

防災マップづくりの過程で、住民の皆さん自身が、災害が発生した場合の行動や平常時に必要な取り組みについて学ぶ。

共助の力を高める

お互いの知識や過去の経験を出し合いながら防災マップづくりを進めることで、住民同士のコミュニケーションを促進し、地域防災力を向上させる。

★ 防災マップづくりは、地域の防災情報を知るだけでなく、**住民同士の交流の機会**となり、**防災意識の向上や住民相互の助け合いの意識の醸成**につながる。

モデル事業の流れ

③防災マップづくり（第2回 後半）

まち歩きで確認した情報を地図に落とし込みます。あわせて、ハザードマップを活用しながら災害想定を書き込むなど、住民自身が地域の防災情報を確認できるように工夫しましょう。

手引き完成！

モデル事業の成果を反映。市内自主防災組織に配布します。

マップ完成！

完成したマップは地区の集会所に掲示したり、清書して住民に配るなどして広めましょう！

②防災まち歩き（第2回 前半）

地域を歩きながら、地図に情報を書き込んだり、写真を撮ったりしながら、地域の資源や危険を確認します。

①災害図上訓練DIG（第1回）

「災害図上訓練DIG」は、参加者が地図を囲み、地域の情報を書き込みながら行う訓練です。まずはお互いに知っている情報を使って防災対策を検討し、意識を高めましょう。

「災害図上訓練DIG」をやってみよう！

災害図上訓練DIGとは？

災害図上訓練
DIG

Disaster　災害

Imagination　考える

Game　いろいろやってみる

DIGをやるにあたってのルール

●**自由に発言、意見交換ができる雰囲気**をお互いにつくりましょう。

●人の話をよく聞き、**異論がある場合には「代案」**を示しましょう。

●**DIGには正解はありません**し、参加者の優劣を決めるものでもありません。**みんなが納得のいくポイント**を探りましょう。

●DIGの中で出た**個人情報**などは、参加者以外の第三者へ他言しないでください。

地図をセットします

①地図をセットします。

②最初に地図をテープでとめます。

③その上から透明シートを1枚かけ、テープで固定します。

④**マーカーで地図の四隅に印**をつけてください。

地域の特徴をつかみます

災害時に多目的に使えそうな広場、公園、運動場、駐車場、神社、空き地を**緑色の斜線**で塗りましょう。

河川、ため池、用水路、海岸線を**青色の線**でなぞりましょう。

ビル、マンション、工場など（鉄筋コンクリート造建物）、 浸水時に駆け込みできる建物の**輪郭線を黄緑色**でなぞりましょう。

地域の特徴をつかみます

公的避難所（行政指定の避難所）に**緑色●シール**を貼りましょう。

例）避難所、避難場所など

住民の視点で見た災害時に役に立つ防災資源に**青色●シール**を貼りましょう。

例）井戸、防災倉庫、防火水槽、病院、コンビニ、薬局、カー用品店、スーパー、ホームセンター、コンビニエンスストア、自動販売機、など

災害時要配慮者のいる世帯に**白色○シール**を貼りましょう。（わかる範囲で）

例）ひとり暮らしの高齢者、寝たきり、障がいのある人、など

水害、土砂災害の可能性、状況を把握します

上からもう一枚、透明シートをかけ、テープで固定します。

『瀬戸内市防災ハザードマップ』（令和2年3月）を参考に、

◎浸水する箇所と範囲があれば、
また過去で浸水した（浸水すると聞いたことがある）箇所があれば、
その範囲を**水色**に塗りましょう。

◎土砂崩れ、土石流の発生個所と範囲があれば、
また話で聞いているそういった箇所があれば、
その範囲を**茶色**に塗りましょう

災害時に危険となる箇所、問題点を整理します

◎冠水して使えない道路、土砂災害で使えない道路を**赤色**でなぞりましょう。

◎特に危険となる箇所に**赤丸●シール**を貼ります。
また、なぜ危険かを**赤色▬付箋紙**に書いてシールの横に貼りましょう。

例）ため池、ふたのない側溝、水のあふれ出すところ等々

地域の特徴を考えましょう

どのような地図になったでしょうか？

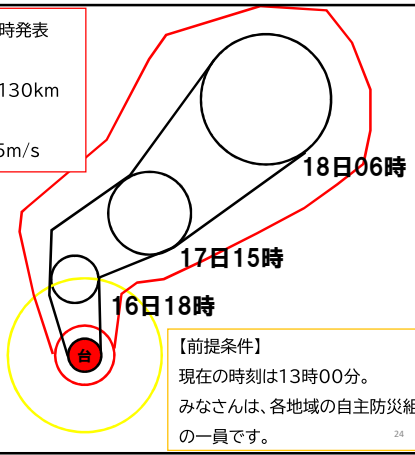
今から時間を差し上げますので、以下の点からまとめてください。

【 課題1 】
この地域の風水害に対する強い点と弱い点は何でしょう？

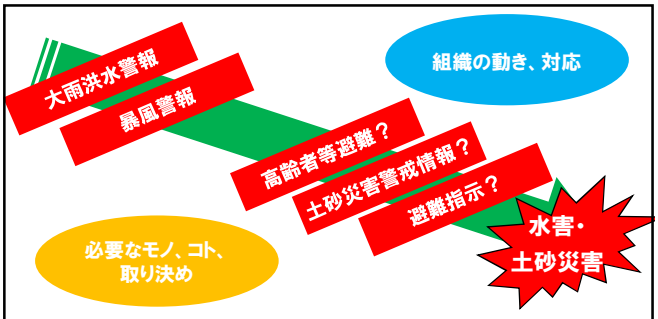
強み → **黄色** **大付箋紙**

弱み → **青色** **大付箋紙**

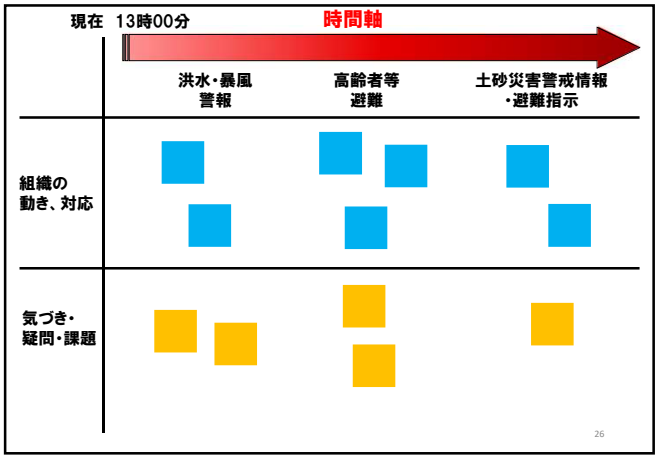
【台風情報】9月16日12時発表
中心気圧：915ha
現在位置：那覇の東南東130km
進路：北北西　25km/h
中心付近の最大風速：55m/s

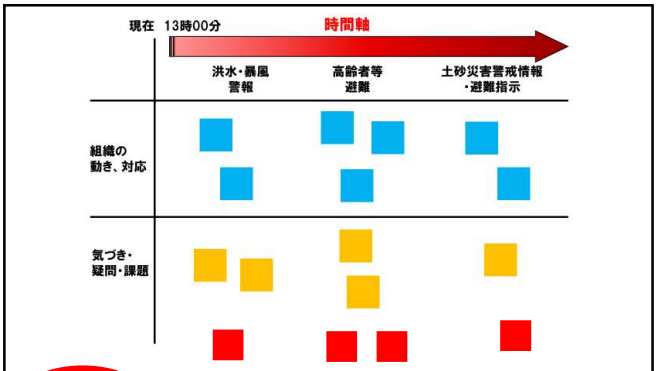


【前提条件】
現在の時刻は13時00分。
みなさんは、各地域の自主防災組織の一員です。



【 課題２ 】 このように風水害の可能性が高まっているとき、みなさんが行う（行うべき）対応とは何でしょうか？　また、対応を考える際に感じた気づきや疑問、課題などはあるでしょうか？
時間軸で整理してみましょう。





今後必要な
取り組み

個人・地域で備えるべきコト・モノ、必要な取り決め、必要な啓発・訓練などを、**赤色付箋紙**に書き出しましょう。

防災まち歩き＆防災マップづくり

令和5年2月18日(土)9:30～12:00　磯上ふれあいプラザ

瀬戸内市役所 総務部 危機管理課

本日のスケジュール

9:30～10:00（30分） **まち歩きの目的と注意事項の説明**
- 参加者の役割分担
- まち歩きルートや点検項目の確認

10:00～11:15（75分） **グループに分かれてまち歩き**
- 縮小地図・チェックシートをもとに危険個所等を確認
- 気になる箇所はカメラで撮影

11:15～12:00（45分） **まち歩き結果の整理（防災マップづくり）**
- 会場作業用の地図に結果を記入
- 気づいたことなどについて意見交換

「防災まち歩き」をやってみよう！

防災まち歩きの注意点

- **団体行動**であるので、**個人の身勝手な行動は慎みましょう。**
  →グループが分散してしまわないように注意
- **交通事故（特にバイクや自転車との接触）に注意**しましょう。
- **他の歩行者へ配慮**しましょう。
- **危険・注意箇所が個人の所有物**の場合、**その場で議論、撮影は控えましょう。**

防災まち歩きで確認するポイント

「災害が起こった」という想定で！

見るポイント（地震の場合）
- 老朽建物の状況の確認
- 地震時の危険個所（転倒、落下、崩落等）
- 防災資源（災害時に役に立つ物、場所）
- 道路の幅（地震時に閉塞しないか）

見るポイント（風水害の場合）
- 危険個所の確認
  （いつも冠水するところ、土砂が流れるところ、冠水時に水路の境界が見えないところなど）
- 防災資源（災害時に役に立つ物、場所）
- その他、気になる場所や不安な場所

防災まち歩きをする

◎役割を決める
- リーダー、サブリーダー → 引率、参加者への声掛け、交通事故防止
- カメラ係 → カメラで防災資源や危険個所等を撮影
- 点検係（地図） → 縮小地図にポイントを記入
- 点検係（チェックシート） → チェックシートを活用してポイントを記入

「防災マップづくり」をやってみよう！

地図をセットします

①地図をセットします。

②最初に地図をテープでとめます。

③その上から透明シートを1枚かけ、テープで固定します。

④**マーカーで地図の四隅に印**をつけてください。

まち歩きの成果をまとめます

災害時に多目的に使えそうな広場、公園、運動場、駐車場、神社、空き地を**緑色の斜線**で塗りましょう。

河川、ため池、用水路、海岸線を**青色の線**でなぞりましょう。

ビル、マンション、工場など（鉄筋コンクリート造建物）、 浸水時に駆け込みできる建物の**輪郭線を黄緑色**でなぞりましょう。

まち歩きの成果をまとめます

公的避難所（行政指定の避難所）に**緑色●シール**を貼りましょう。

例）避難所、避難場所など

住民の視点で見た災害時に役に立つ防災資源に**青色●シール**を貼りましょう。

例）井戸、防災倉庫、防火水槽、病院、コンビニ、薬局、カー用品店、スーパー、ホームセンター、コンビニエンスストア、自動販売機、など

★撮影した写真を地図の空いているスペースに貼りましょう。
（特に重要な場所を選んで貼るようにしましょう）

まち歩きの成果をまとめます

◎冠水して使えない道路、土砂災害で使えない道路を**赤色**でなぞりましょう。

◎特に危険となる箇所に**赤丸●シール**を貼ります。

例）ため池、ふたのない側溝、水のあふれ出すところ等々

また、なぜ危険かを**赤色■付箋紙**に書いてシールの横に貼りましょう。**（家や塀など、個人の所有物は直接的に書かない）**

★撮影した写真を地図の空いているスペースに貼りましょう。
（特に重要な場所を選んで貼るようにしましょう）

水害、土砂災害の可能性、状況を把握します

上からもう一枚、透明シートをかけ、テープで固定します。

『瀬戸内市防災ハザードマップ』（令和2年3月）を参考に、

◎浸水する箇所と範囲があれば、
また過去で浸水した（浸水すると聞いたことがある）箇所があれば、
その範囲を**水色**に塗りましょう。

◎土砂崩れ、土石流の発生個所と範囲があれば、
また話で聞いているそういった箇所があれば、
その範囲を**茶色**に塗りましょう。

★発展：要配慮者の情報を把握します

大規模災害が発生した時には、普段から顔を合わせている地域の人々が集まって、互いに協力し合いながら対応すること（**共助**）が重要だと言われています。

地域の役員や防災リーダー、要配慮者（高齢者や障がい者など）の居住地をあらかじめ把握しておくと、より円滑な避難支援や災害対応にあたることができます。

例えば、マップづくりの際に、避難時の支援が必要な方の情報を書き込み**（白色◯シールで位置を確認すると良い）**、参加者で情報共有し、完成したらフィルムを役員が保管しておくなどしていざという時に活用できるようにしておくと良いでしょう。

今後の磯上地区自主防災会の活動について

防災マップが完成したら

①地域に広めよう

・**公会堂などに防災マップを提示した旨を回覧等でお知らせ**したり、**防災マップを清書した場合は地区内の全世帯に配布**したりして、みんなで情報共有をしましょう。

②定期的に見直そう

・時間とともに地域の状況は変化していきます。定期的に防災マップは更新して、地域で情報を共有しておくようにしましょう。

・毎回まち歩きをするのも一つですが、例えば、**地域の清掃活動や草刈りなどの行事の際に、危険な場所を確認する意識を持って参加してもらうことで、負担をかけずに防災マップの見直しを行うこともできます**。自治会役員の方などと相談しながら、地域行事の中に防災の取り組みを入れる工夫もしてみるといいでしょう。

自主防災活動を継続する・仲間を増やす

【楽しい場づくり】

◆活動を継続するためには、**楽しい場づくり・参加したくなる雰囲気づくり**が大切。

◆子どもも楽しんで参加できる取り組みにすると、親（若い世代）も一緒に参加できる。

自主防災活動を継続する・仲間を増やす

【女性の参画】

◆東日本大震災では、避難所によって、衛生用品等の生活必需品が不足したり、授乳や着替えをするための場所がなかったり、「女性だから」という理由で当然のように食事の準備や清掃等を割り振られたりしたところも見られた。

◆地域防災力の向上のためには、多様な視点を反映させることが重要。そのために、**男女共同参画の視点**を取り入れた防災対策を進める必要がある。

◆自主防災組織の編成にあたっては、女性の意見が反映されるよう、女性の参画を推進し、年齢や性別等によって役割を固定化することがないように配慮する。

自主防災活動を継続する・仲間を増やす

【次世代の育成】

◆地域コミュニティの希薄化や過疎化・高齢化による担い手の不足、リーダーの負担が大きいことによるなり手の不在、1～2年で役員が交代するため継続的な取り組みが困難であるなど様々な問題を抱える地域が増えている。

◆こうした中で、住民一人ひとりが防災対策の担い手であることを再認識し、自主防災活動が将来も継続的に取り組まれるようにするためには、**幅広い世代に対してリーダーの育成を図る**必要がある。

◆毎年開催する「せとうち防災リーダー養成講座」を担い手育成に活用するほか、学校や地域団体などと連携しながら、**子どもたちにも小さなころから「自分の暮らす地域を守っていく」という防災意識を醸成**していく。

自主防災活動を継続する・仲間を増やす

【年間行事との組み合わせ】

◆自主防災組織の具体的な活動範囲や内容を画一化することは、組織の運営上効果的ではない。**地域の実情に応じた自主防災組織づくりと活動が必要**。

◆自主防災組織の活動は地域活動の一部。**現在行われている行事や町内会活動に組み込む**ことが防災活動を持続させるための秘訣。

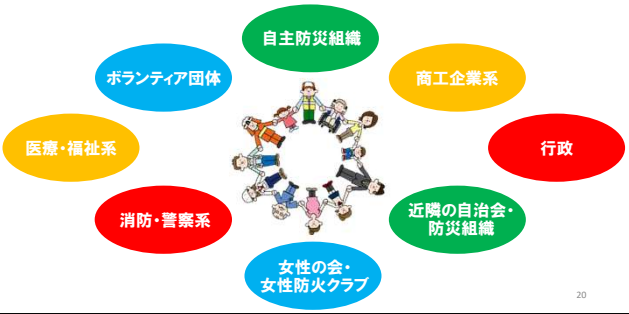
例）草刈り時に消火栓の確認、夏祭りで防災クイズ（景品は防災グッズ）、
自治会総会後に防災アプリの啓発、清掃活動後のふるまいで炊き出し訓練　など。

○自治会総会等	防災知識の普及や防災講習会の開催
○祭り・イベント	炊き出し訓練、資機材稼働点検、消火訓練、救護訓練など
○社会福祉活動	災害時に配慮が必要な方の把握など
○環境美化活動	地域の危険場所の把握・点検など
○運動会	非常持出品や家具転倒防止器具の共同購入・配布など

自主防災活動を継続する・仲間を増やす

【他団体等との連携】

◆地域には多様な人や団体があるため、**まずは連携できる人や団体と協力**しながら、自主防災活動を進めていくことが大切。



防災マップをつくろう！

瀬戸内市防災マップ作成の手引き

発行元：瀬戸内市総務部危機管理課
令和　5年　4月　1日　発行

－　防災マップ作成の手引き・自主防災活動に関するお問い合わせ先　－
〒701－4292
瀬戸内市邑久町尾張300番地1
瀬戸内市役所総務部危機管理課
TEL：0869-22-3904／FAX：0869-22-3299
e-mail：kikikanri@city.setouchi.lg.jp
瀬戸内市の防災情報ホームページ URL：https://www.city.setouchi.lg.jp/soshiki/3/